

# 新型コロナウイルスに打撃

新型コロナウイルスの感染拡大が世界経済に及ぼす影響が深刻度を増してきている。2008年に世界を襲ったリーマン・ショックに匹敵する影響が出てくるというところで、財政や金融での政策対応が求められている。

昨年末から私は、危機の経済学的な思考が必要であると訴えてきた。今回の問題を予言していたわけではない。ただ、過去の内外経済を見ると、5年から10年に一度は、大きな危機に見舞われてきた。いつ、どのような危機が起きるのかは予想できないとしても「危

機は必ず来る」という心の準備が必要であると言いたかった。

こうした経済危機は、ある面で地震に似たところがある。必ず来るものだが、いつどこに来るのか予想できない。災害を止めることも難しい。それでも、そうした災害に備える準備は必要だし、もっと重要なことは災害が起きた後の対応である。よもや新型コロナウイルスのような形で世界的な経済危機の可能性が出てくるとは想像もしなかった。



伊藤元重の

## エコノオッチ

新型コロナウイルスはリーマン・ショックほど経済

# 危機の性質 冷静に分析を

への悪影響が長期化しないだろうという見方がある。ウイルスを抑え込めれば、物や人の移動は一気に回復するだろうというのだ。ウイルスを短期間で抑え込むことができるのか、疫学的な根拠があるかどうかは別として、回復が早いという見方は、今回の危機がサプライサイド（供給側）から来るものであるという認識に基づいている。ウイルスによって縛られている供給制約が解き放たれば、経済の回復は早いはずであるというのだ。

ただ、最近の株価などの動きを見ると、そうした楽観論が正しいのか怪しい面もある。ウイルスによる経済的停滞は、当初こそサプライサイドからの動きだが、それがデマンドサイド（需要側）に伝染することによって、リーマン・ショック並みの金融市場の混乱が起きれば、影響は長期化する。その意味でも、早期にウイルスの影響を抑え込めることを期待したい。

現時点で物価上昇が起きるといえるのはにわかには信じがたいが、確かにサプライサイドとデマンドサイドのショックには違いが多くありそうだ。重要なことは、危機にも色々なタイプがあるということだ。リーマン・ショック並みの危機と身構えるのは結構だが、その危機が私たちのよく知っているリーマン危機とどう違うのか、つまり危機の性質を冷静に分析する危機の経済学が必要なのかもしれない。

需要が急落したリーマン・ショックでは物価は下がったが、供給が激減する石油ショックでは物価は上がった。今回のウイルスショック

クでは、サプライチェーンが機能せず供給が縮小するので物価上昇の可能性も考えうるというのだ。

（学習院大学国際社会科学部教授）